

# 花の島・礼文島

## なだらかな地形と海食崖のコントラスト

礼文島は利尻島の西北約8kmに位置する。東西約5km、南北約20kmあり、利尻島とは対照的な非火山性の細長い島である。全体に丘陵状の地形で、礼文岳の標高490mが最高点である。東側は海岸に向かって緩く傾斜しているが、西海岸は多くが断崖となっているため、集落は東海岸に集中している。北部にせき止め湖の久種湖がある。



桃岩展望台付近から西海岸を望む

### 海岸線から出現する高山植物群落

寒冷な気候条件である上、島の成立が古く、しかも暖地系植物の侵入がなかったため、寒地系の植物が残り、高山植生が海拔0mから出現する。花の浮島と呼ばれるゆえんである。森林は少ないが、昔からなかったわけではない。山火事で焼失したり、かつてニシン漁が盛んだった時代に燃料として切られた跡が、厳しい気象条件のために森林が再生せず、ササ原になっているところも多い。



ハクサンイチゲ



ミヤマオダマキ

### 西海岸と東海岸の違い

南北に長い礼文島では、島の東西で際違った違いが見られる。西側の海岸は冬の季節風が強く海蝕崖が発達し、断崖の上の斜面は強風で雪が積もらないため草原となり、種々の花が咲き競う。一方、東海岸は冬の季節風も西海岸ほど強くなく、集落もあり人々の生活が営まれている。段丘上の斜面にはササ原が広がっている。



チシマフウロ咲く西海岸



南方上空から見た礼文島（左側：西海岸、右側：東海岸）

### Column

#### 利尻、礼文両島の固有植物

海上に孤立する利尻・礼文両島には、長い歴史の間に独自の進化を遂げた固有の植物が多く生育する。リシリヒナゲシやボタンキンバイなどは利尻島固有種、また、レブンキンバイソウ、レブンアツモリソウ、レブンウスユキソウなどが礼文島固有種または固有変種である。このほか、レブンコザクラなど、国内での分布がごく限られている種類も多い。

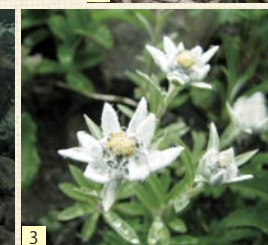


2

- 1 リシリヒナゲシ
- 2 レブンアツモリソウ
- 3 レブンウスユキソウ
- 4 レブンキンバイソウ
- 5 レブンコザクラ



1



3



4



5